

## 体験活動をいかした道徳授業に関する一考察

津野町立精華小学校 教諭 若林 庄司

### 1 はじめに

平成 27・28 年度の 2 年間、「体験活動をいかした道徳授業に関する一考察」をテーマに、体験活動をいかした道徳授業を多様に構想し、その実践を行い、効果を考察する研究を行った。本研究の結果、体験をいかした道徳授業は、児童が道徳的価値について多面的・多角的な見方へと発展させていくことに有効に働くことが明らかになった。また、体験活動の意識が道徳授業に結びついているため、道徳的価値を自己との関わりで捉えることができ、道徳的価値の自覚を深めることができること、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題をもつことにも有効に働くことが明らかになった。

本研究の成果を踏まえ、平成 29 年度には、勤務校で体験活動をいかした道徳授業を新たに構想し、授業実践を行うこととした。また、本研究において、「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている」「道徳的価値について多面的・多角的な見方へと発展させている」の 2 点を視点として、道徳授業の評価を行った。この評価方法は、平成 30 年度から実施される道徳の教科化に伴う児童の評価及び授業の評価としていかすことができると考えた。そこで、道徳教育推進教師として提案を行い、今年度、勤務校の校内研修において、評価方法の研究を行うこととした。

### 2 平成 29 年度の実践内容

#### (1) 体験活動を生かした道徳授業の実践

- ① 教材名：「最後のおくり物」 実施日：平成 29 年 6 月 対象：5 年生（11 名）
- ② 道徳授業に体験をいかす工夫

授業の導入時に体験活動を想起させる。また、展開時の中心発問において自己の体験から考える道徳的価値と資料から考えた道徳的価値とを比較させる工夫を行う。

#### ③ 授業略案

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
入 導	1. 思いやりのある行動について考える。	○「思いやり」ってどんなことだろう。 *具体的にはどんなこと？	・写真を提示し体験を想起させる。
展 開	2. 教材「最後のおくり物」を読み、「ジョルジュじいさん」の思いを考える。 (1) おくり物を送るジョルジュじいさんの思いを考える。 (2) ジョルジュじいさんの思いやりと自分の考える思いやりを比べる。 3. 自己の生き方を考える。	○お話を聞いての感想を发表しましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ジョルジュじいさんの思いやりについて考えよう</div> ○ジョルジュじいさんにはどんな思いやりがあっただろう。 ○なぜ、ジョルジュじいさんはロベータに気づかれぬように毎月お金を渡したのだろう。 *ジョルジュじいさんのことをどう思いますか。 ○みんなの考える思いやりとジョルジュじいさんの思いやりでは、同じ所と違う所はどこだろう。 *思いやりってどんなことだろう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自己の体験と資料から考えた価値との比較</div> ○今日の学習を通して考えたことを書きましょう。	・ロベータの立場に立って考えるジョルジュじいさんの思いに気付かせたい。 ・自己の思いやりとジョルジュじいさんの思いやりを比較し、思いやりについて改めて考える。
終 末	4. 自己の生き方を伝え合う。	○ワークシートに書いたことを发表しましょう。	

#### ④ 体験活動をいかした道徳授業の検証方法

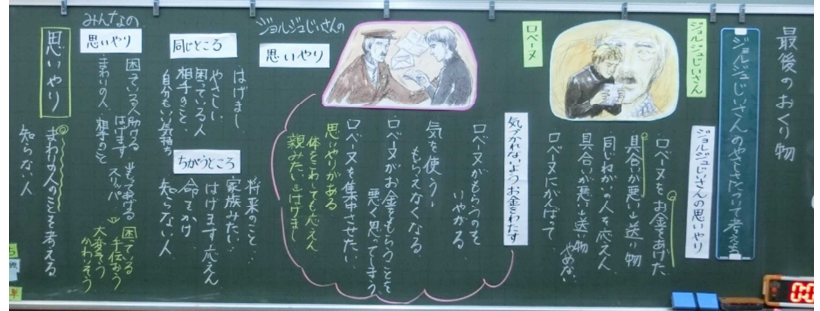
児童の発言や感想等を用いて、児童の道徳的価値の自覚の深まりを検証する。その際の視点は、「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている」「道徳的価値について多面的・多角的な見方へと発展させている」の 2 点とする。

⑤ 授業の評価

ア ワークシート及び発言を評価した結果 (n=11)

視点	多面的・多角的な見方な見方	自分自身との関わりで考える
できた人数 (人)	8	6

「思いやり」に対する多面的・多角的な見方へと発展することについてできた人数は8名だった。「知らない人にも思いやりの心を持つ」など誰に対しても思いやりの心を持つことについて考えることができていた。価値について自分自身との関わりで深めることについて、達成できた人数が6名で約半分だったので、価値を自分自身との関わりで考えさせることは十分でなかったと考えられる。



イ 考察

児童の感想には「思いやりに浅い、深いがある」「一つ上の思いやり」を行った言葉が見られ、授業を通して、今まで持っていた「思いやり」と違った見方ができた。しかし、今回の授業では、自己の「思いやり」のある体験を想起し、その体験と資料から考えた「思いやり」を比較して深く考えさせることが十分でなかったため、価値について自分自身との関わりで深めていくことも十分でなかった。その原因は、児童に自己の体験を想起させることが弱かったことだと考えられる。いかに、自己の体験を鮮明に想起させ、自分自身と関連づけて考えさせていくかが、今後の課題である。また、授業の中で体験をいかすには、普段の生活の中で、児童の「思いやり」のある行動をとらえ、評価し、価値づけていくことも授業改善と合わせて行っていく必要があると考える。

(2) 道徳の評価方法についての校内研修

平成30年度の教科化に向け、全教職員が共通認識のもと適切な評価が行えるように、毎回の研究授業において評価の研修(ワークショップ)を行い、評価方法について学習を深めた。1年間、評価方法の研修を継続したことで、道徳科における評価の視点について、「多面的・多角的な見方」「自分自身との関わりで考える」とはどういうことなのか、その視点をもとにどのように児童の成長を見取るのか等について、教職員の理解が進んだと同時に、その共通化が図られた。また、評価の具体的な方法についても理解が図ることができた。

☆道徳の評価方法についての研修(ワークショップ)の流れ

1. 授業者より
  - 子どもたちのどのような意見を、「多面的・多角的な見方への発展」及び「自分自身との関わりで考える」と考えていたのか授業のねらいを話す。
2. 評価のワークショップ
  - (1) ワークシートの記述をもとに、児童の評価を行う。
    - 赤ペンと青ペンで児童の記述に線を引く。赤線:多面・多角 青線:自分自身
    - ワークシートの記述では見とることができない児童は、発言記録をもとに評価を行う。
  - (2) 高・低ブロックで児童の評価を出し合い、個人名簿にまとめる。
 

氏名	多面的・多角的な見方	自分自身との関わり
〇〇 〇〇	〇	〇
▲▲ ▲▲	×	〇
  - (3) 高・低ブロックで個人の評価をもとに、授業の課題を出し合い授業評価を行う。
  - (4) 高・低ブロックで課題をまとめ、授業の改善策を話し合う。
  - (5) 全体で改善策を発表
3. 授業者より
  - 今後の授業で改善すべきところ、今後の取組を発表

全員で、ワークシートの記述を「多面的・多角的な見方」「自分自身との関わり」の2つの視点で評価しています。

ワークシートの記述の横に、「多面的・多角的な見方」「赤線」「自分自身との関わり」を青線は引いています。

3 29年度の実践の成果と課題

今年度、体験活動を通して得た児童のもつ道徳的価値と、資料内の登場人物の行動に表れる道徳的価値の比較を行う授業を構想し実践を行った。結果、児童はねらいとする道徳的価値について多面的な見方を広げることができたと考えられる。しかし、自分自身の生活と関連付け、どのように実生活でいかしていくのかを考えることは不十分だった。体験活動(体験)を道徳授業に生かす方法は様々である。今後も、より効果的な体験をいかした道徳授業を構想し、児童の道徳性の育成に励んでいきたい。また、来年度より道徳科が実施となる。学習指導要領の趣旨に沿った授業を行い、児童の適切な評価を行うことができるよう、勤務校の教職員と共に評価方法に対する理解をさらに深めていきたい。